

第2回 新潟市芸術創造村・国際青少年センター指定管理者申請者評価会議 議事録

会議名：新潟市芸術創造村・国際青少年センター指定管理者申請者評価会議

日時：令和2年10月26日（月） 午後1時30分から午後4時10分まで

会場：市役所ふるまち庁舎4階 401会議室

委員：相庭委員（会長）、小田委員、霜鳥委員、新保委員、高野委員、柳沼委員 計6名

傍聴者：2名

事務局：教育委員会地域教育推進課（代表）、文化スポーツ部文化政策課

発言者	発言内容
相庭会長	<p>それでは、プレゼンテーション及びヒアリングの開始の時間ですので、事務局は申請者と傍聴者を入室させてください。</p>
相庭会長	<p>それではこれよりプレゼンテーションを行っていただきます。時間は60分以内です。55分経過時と60分経過時に事務局がベルを鳴らしますので、時間厳守でよろしくお願いいたします。それでは始めてください。</p>
申請者	<p>本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>当社は、次期指定管理期間における事業理念として、『文化芸術活動』と『青少年体験活動』のさらなる融合、市民がいきいきと暮らし心豊かな子どもを育む新潟市独自の“ふれあいの場”を創出します」を掲げました。</p> <p>当社は、平成30年度より指定管理者として、立ち上げより本施設の管理運営に携わらせていただいておりますが、新潟の特色を生かした文化芸術活動支援事業、青少年体験活動推進事業の展開については、ある程度形にできたのではないかと考えています。</p> <p>一方、見えてきた課題もいくつかあります。特に学校関係を中心とした地域団体の利用促進や、施設認知度の向上については一層の改善の余地があり、さらに本施設の特徴である文化芸術活動と青少年体験活動の融合についても徐々にフレームができつつある段階です。次期指定管理期間ではこれらの課題を解決すべく、事業理念の具現化に向けて、以下の基本方針にのっとり事業展開を行ってまいります。</p> <p>「基本方針1 平等利用とコンプライアンス」、「基本方針2 学校利用のさらなる促進」、「基本方針3 『水と土の芸術祭』の理念を継承した事業展開」、「基本方針4 『にいがたアドベンチャー』を主軸とした体験活動」です。</p> <p>ではこれより事業計画書につきまして、補足説明をさせていただきます。</p> <p>具体的な目標設定についてです。前年度の利用人数は目標5万8千人のところ7万7千458人、達成率133.5%と、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下でありながら目標を大きく上回りました。したがって、令和3年度の目標は公の目標管理型評価書の目標である7万人以上の7万8千824人を目指します。</p> <p>一方、稼働率については公の施設目標管理型評価書にある50%に達していないことから、学校を中心としてさらなる利用促進を図ります。</p> <p>では、これより稼働率向上に向けた学校を中心とした利用促進への取組について補足説明をさせていただきます。</p>

まず、学校を中心とした滞在型研修を、1日滞在型研修から、原則2日滞在型研修として利用いただくこととします。これまでは研修室の利用が朝9時から翌朝の9時となっております。このため使用後の朝の支度、朝の会、朝ご飯、研修室の片づけ、退出時のチェックなどを行う朝の時間帯が利用者にとっては慌ただしく、大切な教育活動である部屋の片づけをしっかりとできないゆとりのない時間帯になっていました。これらは利用校のアンケートからもわかっていることです。そこで研修室の利用を1日から2日に延ばすことによって朝の時間帯にゆとりを持たせようと考えての対応です。また、研修室、談話室、和室、そのほかの部屋を荷物置き場、靴置き場、ミーティングルーム、保健室等で有効利用いただき、利便性の向上を図ります。これらの対応により、時間帯にも空間的にもゆとりをもって研修に取り組んでいただけるようにいたしました。これらのことは各室の稼働率の向上にもつながることとなります。

また、次期指定管理期間では社会教育主事を学校支援員として配置し、館長を補佐しながら学校利用の利便性向上及び渉外活動に従事していただきます。

そのほか、各種学校長会では情報の発信、市外小中高等学校への渉外活動、地域限定での全児童・生徒イベントチラシ配布等、各種学校に対してさらなる利用促進に努めてまいります。

また、県内高等学校の部活動及び予備校、専門学校も含めた学習合宿利用を想定した「ゆいぽーと合宿プラン」を作成し渉外活動に努めます。ちなみに、前年度は市内全高等学校に全職員にて個別訪問を行い、プランを説明したところ数校から興味を示していただきました。今後は、市外の小中学校の自然教室、体験教室のプランの作成にも取り組み、合宿プランとあわせてゆいぽーとの魅力を発信していきます。新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら市外の学校を訪問するなどし、利用拡大の試みを進めてまいります。

続いて、職員配置の特色についてです。統括責任者である館長には学校長経験者を配置し、前述のように学校支援員が館長を補佐しながら学校利用の利便性向上に努めます。施設管理責任者として施設管理長を非常勤にて配置、施設維持管理業務を統括します。また、所管課窓口及び適正な事務処理執行を目的とし事務局を配置します。加えて、英語力を有する国際交流スタッフを非常勤にて2名配置し、そのうち1名は中国語も堪能なため、特に文化芸術活動支援事業では大きな戦力となります。そして文化芸術支援活動、青少年体験活動推進事業における事業責任者としては、経験豊富な現職2名がその任にあたります。統括及び文化芸術支援事業ディレクターについては、引き続き小川弘幸が担当し、アシスタントディレクター1名がディレクションをサポートします。青少年活動推進事業については、現ディレクターの鳥羽和明がアソシエイトプロデューサーとして企画立案、渉外を担当し、現地で事業運営についてはアシスタントディレクターを中心に行います。

では、これ以降は両名よりそれぞれの事業内容について説明させていただきます。

文化芸術活動支援事業への取組について説明いたします。

まず、私の自己紹介になりますが、私は生まれも育ちも新潟でありまして、文化芸術活動の取組につきましても、ほぼ一貫して新潟を舞台に活動してまいりました。28年前にNPO団体文化現場を立ち上げてからは新潟の独自性を生かした活動を重点的に展開し、様々な分野に渡るプロジェクトを実施してまいりました。

これまで行政と連携した取組みも少なくなく、とりわけ2009年から始まった水と土の芸術祭では全ての回に役割を担って参加してまいりました。10年余りに及ぶ同芸術祭を通じて、私は新潟のアイデンティティを再確認するとともに、文化を求める市民の情熱や地域の声を熱く受け止め、様々な活動を共にしてきました。3年に一度トリエンナーレ形式で行われてきた水と土の芸術祭については前回をもって幕が引かれたとも言われておりますが、芸術祭の存続を望む市民の声があることもまた事実です。今後のことは、市民が主体的に道筋を描いていくことが求められています。

ゆいぽーとがオープンした2018年は、第4回目となった水と土の芸術祭の開催年でもありました。ゆいぽーとはサテライト会場として位置づけられ、国内外から迎えた多くの来場者による賑わいの中、文化プログラムがスタートしました。アーティスト・イン・レジデンスをはじめ、水と土の文化ギャラリーを有する本施設は、同芸術祭の成果とネットワークを引き継ぐとともに、発展させることで存在感と拠点性を高めることができます。そうした観点から、文化芸術活動支援事業の基本方針として水と土の芸術祭のコンセプトを継承することにいたしました。

次に、アーティスト・イン・レジデンス事業についてです。年間を通じ、8組程度の芸術家等を国内外から募集し、選定された芸術家等を受け入れ、活動支援を行うアーティスト・イン・レジデンス事業こそ、ゆいぽーとにおける文化プログラムの最大の特徴と言えるでしょう。新潟市の独自性を生かした「新潟市ならではの」を志向するとともに、青少年活動も行う複合施設としての強みを生かした「ゆいぽーとならでは」の取組に発展させてまいります。募集については、2か国語以上のホームページやソーシャルメディアを中心に行うほか、美術誌などの有効な広報媒体を活用いたします。オランダのアムステルダムに本部を置く、アーティスト・イン・レジデンスの国際的なネットワークである「レザルティス」に私たちはすでに加盟しておりますが、次年度以降も引き続き加盟し、世界に向けた情報発信に努めます。

また、「小須戸アートプロジェクト」や「さどの島銀河芸術祭」など、地元で同様の取組を行う団体や個人との連携も深めてまいります。

招聘プログラム等選定委員会を設置するとともに運営してまいります。委員につきましてはアーツカウンシル新潟のプログラムディレクターを含む市内外の有識者5名の方々からご就任いただきます。

芸術家等の活動支援には市民参加が不可欠です。水と土の芸術祭ゆかりの「みすつちサポーターズ」のみなさんからは初年度から協働いただいておりますが、今年「KYAF」と名乗る新たな応援団が誕生いたしました。これは「勝手にゆいぽーとアーツファンズ」というチーム名の頭文字、KYAFを並べたものですが、滞在する芸術家と新潟のヒト・モノ・コトをそれぞれの得意分野でつなぐ、大変心強いパートナーとして協働いただいております。

滞在する芸術家等が制作した作品についてはより効果的な展示を実施するもの
といたします。ゆいぽーとの工房・ギャラリーでの展示を基本といたしますが、時
には屋外も展示空間となります。これまでも西海岸の突堤や古町通商店街などで展
示を行いました。また、現在滞在中の作家は砂丘館での展示を希望し、その調整を
行っているところです。

私たちゆいぽーとのアーティスト・イン・レジデンス事業に従事する職員は、ス
キルアップとネットワーク構築のため各地で開催される勉強会や情報交換会にも
参加してきました。新型コロナウイルス感染症により、今後はオンラインでのミー
ティングが増えることも予想されますが、引き続き積極的に参加してまいりたいと
思っております。

次に市民交流事業についてです。これはアーティスト・イン・レジデンス事業に
おける市民交流事業と、地域の文化芸術各団体等との連携による市民交流事業の2
本柱となります。ともに多様な市民が参加できるよう、企画内容はもとより発信の
仕方にも工夫を重ねてまいります。連携する団体や個人と有機的な関係を育むとと
もに、クリエイティブな人材の発掘や育成にもつなげてまいります。

市民交流事業と関連し、二葉アーツスクール「めだかの学校」を開催いたします。
これは指定管理者による自主事業として、初年度から毎年開催しているものです。
歴史や文化など新潟ゆかりのテーマを設定し、地元のスペシャリストを講師に迎え
実施する連続講座です。ゆいぽーとがすべての人々に開かれた生涯学習の場、言わ
ば学び舎として愛され、末永く利用されることを目指すものです。

新潟市の魅力を向上させる取り組みとして水と土の文化ギャラリーの企画展示
を年2回以上実施いたします。文化芸術各団体やクリエイター等と連携し、アート
のみならず新潟の暮らし・文化など多彩なテーマで、新潟の独自性に基づく魅力の
数々を発信していきます。

ここからは、これまで実施した市民交流活動などの主な事例となります。

「竹かご編みワークショップ」。これはゆいぽーとも参加しております「異人池
の会」という西大畑と旭町の文化施設協議会の主催による「新潟 竹あかり 花あか
り」の関連イベントとして企画されたものです。

「礎窯サポーターズ出張作陶体験会」。これは水と土の芸術祭2012に参加し
たアーティストである「Nadegata Instant Party」のアートプロジェクトを機に
発足したチームによるもので、ゆいぽーとで作陶された湯飲みや小鉢などの作品は
旧礎保育園にある礎窯で焼かれ、後日参加者に受け渡されました。

「宇宙と星とその果てに」。これは水と土の芸術祭2012に参加したアーティ
ストである藤浩志さんのアートプロジェクトを機に発足したクリエイティブユニ
ットである「手部」と連携して行ったものです。コミュニティスペース全体を使っ
たインスタレーションの中、お笑いや絵本、映像作品や洋服づくりの公開制作など
実に多彩なイベントが繰り広げられました。

「節分アート体験」。これは新潟のアーティストである藤井芳則さんを講師に迎
えて行ったもので、クリエイティブスタジオのブラックライトを効果的に使い、宇
宙空間に見立てたインスタレーションの中、手作りの光る鬼のお面をつけ、独創的

な豆まき体験をしました。

「新春 鳥凧展」。これは「新潟鳥凧の会」と連携した企画展で、コハクチョウやオオヒシクイ、トキなどの新潟ゆかりの鳥凧を集めて展示いたしました。鳥凧は新潟オリジナルの凧として世界的にも注目を集めているもので、鑑賞と実用の両面から多くの人たちを魅了しています。

そして「(仮想)みずとつちの芸術祭」。これはつい先月まで実施していたものです。「可能性をつなげ、掛け合わせる」をコンセプトとし、市民主導による新しい芸術祭の可能性を探るものとして企画されました。西堀ローサをサブ会場とし、新作アートや過去作品などのアーカイブスとインフォメーションを兼ね備えた濃密な空間を展開いたしました。

以上、文化芸術活動支援事業について説明させていただきました。

では続きまして、青少年体験活動推進事業について説明させていただきます。

まず簡単に、私の自己紹介から書かせていただいております。現在も三条市在住です。生まれも育ちも三条市でございます。2011年度から三条市グリーンスポーツセンターという施設のセンター長をしています。これは三条市が持っている公共施設でして、少年自然の家のちょっとコンパクトな施設を想像していただければと思います。市街地から車で15分、少し山手のところにある施設なのですが、その管理を10年間してまいりました。主に私の仕事の舞台は自然の中でして、子どもから大人まで自然の中に案内をして、自然の中での活動の楽しさを伝えていきます。そのグリーンスポーツセンターで年間50回以上、この10年間にわたって事業を実施してきています。その経験を生かして、ゆいぽーとでも様々な事業の企画、立案を行ってきております。グリーンスポーツセンターでは、「さんじょう自然学校」という名称で様々な事業を展開しています。その実績を少し掲げさせていただきます。写真を見ていただいてもわかるように、山手にある施設ですので、夏場は緑一色の中、子どもから大人まで様々な自然の中でのアクティビティを体験していただいています。ゆいぽーとも近隣に海、および松林、西大畑公園等ございまして、そういった自然の中で主に青少年の子どもたちに様々な活動を提供していきたいと思っています。「原始的な火おこし体験」とか「オリエンテーリング」とか「親子アドベンチャー体験」などをこの10年間、三条市グリーンスポーツセンターでたくさん実施をしてきておまして、それをそのままゆいぽーとでも事業展開させていただいた実績がございます。施設周辺の自然環境をいかに活かすか、そこに楽しさも含めたいので子どもたちや大人たちをどう案内していくか、そういったところが得意でございますので、これからもアソシエイトプロデューサーとして、非常勤の形にはなりますけれどもゆいぽーとの青少年体験活動推進事業について企画運営をしてまいりたいと考えております。

全体像として、基本方針を記載させていただきました。業務仕様書の中でも人間関係づくりプログラムを重点的に実施してほしいという風に記載されていることから、人間関係づくりプログラム、私共は「にいがたアドベンチャー」と呼んでいますが、それを主軸とした体験活動を次期5年間も推進してまいるところでございます。

ます。

それに加えて、今まで以上に隣接する海を活用することと、同じ施設に入っている文化芸術機能との融合をより強く推進していきながら、青少年たちにより豊かな体験の場を提供していきたいということを基本方針に掲げています。

主軸と言った「にいがたアドベンチャー」、つまり人間関係づくりプログラムについて少し説明させていただきます。そもそも人間関係づくりプログラムとは、学校等の日常の中では体験できない、集団で課題を解決する活動を通じて、課題への挑戦であったり、仲間との協力であったり、集団の中で感じる葛藤や達成感を体験してもらうことで、仲間との信頼関係を感じてもらう活動となります。それらを通して、新潟市が教育ビジョンに掲げている「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育てることに、私たちは寄与していきたいと考えています。

少し具体的な話に入ります。設置エレメントとして「TP シャッフル」「ジャイアントシーソー」を掲げています。これは、市が数年前にグラウンド部分に設置をした屋外にある木製のエレメントのことです。右上の写真が「TP シャッフル」。アメリカから入ってきた「プロジェクトアドベンチャー」という活動をベースとしているので、TP はテレフォンポールの略で、つまり電柱のような丸太の上で活動するものです。また右下が「ジャイアントシーソー」。その名のとおり大きく不安定なシーソーの上で様々な活動をするものです。この市が設置した2つのエレメントについては、これからもフルに活用していきたいと思っています。それと「ウォール」、「ニトロクロッシング」。この2つも木製の屋外に設置しているエレメントなのですが、これは私たち当社が設置させていただきました。グラウンド部分に合計4つの木製エレメントがあるのですが、それ以外にも屋内で使用できる持ち運び可能なポータブルエレメントも複数ございますので、そういったものを組み合わせて、雨天時や冬場の期間も青少年に人間関係づくりプログラムを常の実施できるような体制を整えているところです。

同じくプログラムを実施するにあたり、私たちは「ファシリテーター」と呼んでいます。指導者の存在が重要だと思っています。全職員のうち9名がにいがたアドベンチャーの指導者として活動しています。全員株式会社プロジェクトアドベンチャージャパンが主催をしている指導者養成講座を1回、また2回、3回と受講した実績があります。それ以外に、この3年間で指導者養成講座を複数回開催しており、受講して指導者として登録をしていただいた一般の方たちが、外部スタッフとして21名いらっしゃいますので、合わせて30名のにいがたアドベンチャーの指導者を登録して抱えているところでございます。この3年間の中では、最大で160名の児童・生徒さんに対し、12名の指導者をこちらで用意をして、2～3時間のプログラムを対応させていただいた実績もございます。

以上のように、にいがたアドベンチャーを主軸としてやっていこうと思っていますので、日帰り利用や宿泊利用に関わらず滞在する団体さん全てに、にいがたアドベンチャー実施の提案をさせていただく予定です。

続いて「青少年体験活動プログラム（利用団体向け）」です。仕様書上大きく分けて5つの業務があり、そのうちの1つ目の事業で、主に小中高校など学校団体に

向けたプログラムです。これまでも、野外炊事であったり、松林でのオリエンテーリングであったり、松林もしくは西大畑公園に移動してのネイチャーゲームなどおよそ20のプログラムを用意して、団体が選択して体験していただくような形をとってきました。次期5年間の中では、隣接する目の前の海を使ったアクティビティの数を増やしていきたいと考えています。例えば「Eボート体験」。10人定員の左右に分かれて座る手漕ぎボートで、息を合わせて漕がないとまっすぐ進むことができず、そこに体験活動の有効性があるプログラムです。既に今年度の宿泊体験事業の中で実施した実績があり、右上の写真はその時のものです。また、ペットボトルを素材にした手作りのいかだを海に浮かべて実際に乗ってみる「手作りいかだ体験」を新規で考えており、そのために必要なライフジャケット等の貸し出しの準備を現在進めているところです。また「新潟港海岸利用促進委員会」という国交省が開催している会議体にも参加をしており、そこで東京に所在するビーチスポーツ等様々な団体とのつながりも出てきているところですので、将来的には青少年にビーチテニスやビーチバレーなども体験できる機会を提供したいと中長期的な視点で考えております。また、滞在アーティストがいる期間には、アーティストと触れ合えるプログラムを積極的に団体に提案する予定です。アーティストのワークショップ、もしくは制作過程の見学を青少年にも体験していただきたいと思っています。以上のような様々な活動によって、現在、学校教育において子どもの体験活動の充実が非常に求められている時代だと思いますが、そのような様々なニーズに応えていきたいと思っています。

次に、5つある大きな事業のうち2つ目です。「青少年健全育成事業(個人向け)」、これは青少年個人もしくは親子向けの事業です。簡単に言うと日帰りで、事前に日時を設定して行う体験活動イベントです。学校のクラスメイトとは違う参加者同士で様々な活動を体験することで、協調性や主体性、チャレンジ精神を養うものです。全く知らないその日初めて出会う人々の共同作業を体験していただくことも、青少年にとっては非常に重要なことだと認識をしており、そのような場を提供させていただくものです。仕様書で定められている回数よりもずいぶん多い数字なのですが、年間20回のイベントの開催をしたいと考えております。そのうちの1回は国際交流に関する事業、これは仕様書どおりです。また宿泊事業については、20回のうち3回実施させていただく予定です。ポイントとして、これまでにいがたアドベンチャーや野外炊事などいろんな体験ができる「ゆいぽーとワクワク体験キャンプ」という宿泊事業を年に3~4回やってきたのですが、それは年1回として、3回の宿泊事業のうち2回を「アート体験キャンプ」として実施しようと考えております。「アート体験キャンプ」とは、滞在するアーティストと二日間一緒に体験活動を行う事業で、今年度11月に初めて開催します。アーティストによるワークショップのほか、一緒にカレーライス作りをするなど、青少年とアーティストご本人と一緒に触れ合いながら、同じものを二日間の中で作るという趣旨のキャンプです。またこれ以外に、日帰りイベントを十数回行います。国際交流系の事業やネイチャーゲーム、ブラックライトが使えるお部屋で、ブラックライトで光る作品を作るイベントをこれまで同様に行う予定です。

次に、これまでに行った個人向けのイベントの実績を簡単に紹介します。

「ネイチャーゲーム」。これは日帰り事業やキャンプでもよくやりますし、選択プログラムの中にもあるのですが、すぐ隣の松林にあるドン山や、新潟市美術館の向かいにある西大畑公園など、近隣の自然を使って自然に直接触れてもらう活動です。

また「焚き火交流会」とありますが、これは「焚き火で焼き芋を焼こう」という毎年定番の大人気イベントで、11月1日にも開催するのですが、20名の定員に対し50名程度の申し込みが来ている状況です。焼き芋を上手に焼く指導をさせていただき、芋を焼いている間にマシュマロ焼きをしたり、ソーセージ野球楽しんだり、直接火と触れ合って楽しんでもらえるような活動です。

次は「ピザ作り体験」。粉を捏ねるところからやっただくピザ作り体験をキャンプの中などで行っており、調理室で作ったもの野外炊事場に運び、炭火のピザオーブンで焼くというとても好評のイベントです。

次に「火起こし体験」ですが、原始的な火起こしということで、まいぎり式の火起こしを使って、木と木を擦り合わせて火種を作るところから体験をしていただくイベントを開催しております。

続いて「英語でハロウィーン」というイベントです。他にも七夕、クリスマス、節分といった季節行事を行っており、来館している未就学児も含めた青少年たちに、季節を味わってもらい、ゆいぽーとに来たら楽しいと言うことを感じてもらえるような趣旨のイベントを、今後も引き続きやっていきたいと考えています。

また「天体望遠鏡で星空観察」。これも夏の定番事業で、毎年定員を超える申し込みをいただいております。大きな天体望遠鏡を使って土星の輪や木星のガリレオ衛星まで見られるということで、子どもたちが大興奮する事業です。

次は、5つある大きな事業うちの3つ目になります。「市民交流事業」ということで、業務仕様書にも2回以上開催し、1回は防災に関すること、1回は文化創造に関することという指定がございます。スライドで紹介しているのはこのうちの防災に関する事業で、これまで毎年開催している「防災デイキャンプ」です。緊急時や災害時に役立つ非常食作り体験だったり、足を怪我しないように新聞紙で作るスリッパ作りだったり、そういったものを親子で体験していただく事業です。これまで地域への広報や地域からの参加が弱かった部分もあるのですが、地域の回覧板等を活用させていただきながら、地元の方と青少年の交流も含めて災害時に役立つプログラムの体験をしてもらおうと計画しています。またスライドにはありませんが、文化創造に関する事業については、毎年6～8月に開催される「全国とカプラ®大会」の会場にエントリーし、青少年と地域の住民と一緒にカプラ®作品を作って応募する事業を行っており、今後も引き続き行ってきたいと思っています。毎年参加者のうち1人程度が入賞しており、これからも拡大していきたいと考えています。

続いて、5つある事業うちの4つ目です。「青少年の遊び場・居場所づくり事業」ということで、開館日は毎日行っているものです。ピークは近隣の小学校の放課後の時間なのですが、子どもたちが自由にゆいぽーとに来て、ラウンジや体育館、

軽運動場でいろんなゲームをしたり、運動をしたりして安心安全に過ごしていただくという事業です。今はコロナ禍の状況なので、一人当たりの使用時間に制限があったり、体育館に入る人数に制限があったりしていますが、通常期ですと多い日は1日200～300人の子どもが来て、午後2～3時ぐらいになると子どもたちの声が館内に響き渡っているという状況です。特別な事情がない限りは毎日朝9時から夜9時まで開放しております。小・中・高校生のみでの利用は、安全の観点から午後5時半までとしており、引き続きこの運用で行っていきたいと考えています。記載のとおり、様々な貸出用具も用意しております。また、遊び場・居場所づくり事業の中で、カブラ®の体験をしたり、けん玉を体験したり検定を受けられる日も設定しており、それらの内容も含めて、いつ行くとどんな遊びができるかがわかる月間スケジュールを作成、館内やホームページに掲示して、事前に青少年や保護者に向けて周知しています。また、次期5年間の新しい取り組みとして準備をしていることなのですが、月に1回、国際交流員の方や新潟青陵大学のボランティアの学生に来ていただき、遊び場に来ている子どもたちと触れ合ってもらう機会を提供したいと考えております。市の国際課と調整を進めるとともに、新潟青陵大学さんからは「共に強く連携してやっていきましょう」というお言葉をいただいているところですので、来年度以降実現できると見込んでおります。遊び場の中で異文化交流や多文化共生、異年齢交流ができるようにしていきたいと考えています。

そして最後の5つ目の「指導者育成講座」です。A業務とB業務の2つの事業指定があります。A業務はにいがたアドベンチャー以外のプログラムの指導者の養成で、年に1回、新規及び既に登録をされている方にも参加していただけるものを、日帰り6時間で開催いたします。原始的な火おこしや野外炊事の方法など、日帰りや宿泊事業の際のサポートもしくはメインの指導者として協力していただける可能性のある方に受講していただくものです。また、より力を入れるのはB業務で、主軸として実施するにいがたアドベンチャーのファシリテーター養成のための講座です。これも新規と既に登録されている方が同時に参加できる講座を年に1回、日帰りの連続3日間、延べ21時間で、株式会社プロジェクトアドベンチャージャパンから講師を招聘して開催いたします。株式会社プロジェクトアドベンチャージャパンは、人間関係づくりプログラムについて日本のトップクラスのプログラム開発会社と考えておりますので、これまで同様、強く連携して実施していきたいと考えています。また、先ほども申し上げたとおり、新潟青陵大学と連携させていただき関係で、養成講座にも積極的に参加していただけるようご案内をしているところです。養成講座を受けて登録指導者になっていただき、ゆいぽーと活動のサポートに入りたいと考えています。実は、今月実施したA業務の指導者養成講座に新潟青陵大学のボランティアセンターに登録している学生10名が早速参加され、指導者となっていただきました。参加された方も「一日も早く、ゆいぽーとで子どもたち相手に事業のサポートをしていきたい」と目を輝かせておられ、とても印象的でした。

以上、長くなりましたが、青少年体験活動推進事業の説明をさせていただきました。

次に、「文化芸術活動」と「青少年体験活動」の融合についてです。

複合施設の特性を活かした取組みとして、アーティスト・イン・レジデンスで滞在するアーティストと共に企画した青少年を対象とする「アート体験キャンプ」を行います。先ほどの青少年体験活動推進事業の説明にもありましたが、スライドでお示ししているのは来月実施予定の事業で、現在滞在している運輸康人さんによる「宇宙人現る！？その時君なら何を伝える？」のフライヤーです。また、滞在中のアーティストによる選択プログラムも引き続き提供していきます。

地域の文化芸術団体と連携したプロジェクトでも、青少年体験活動と融合した展開を図っていきます。「にいがた花絵プロジェクト」、そして「明後日朝顔プロジェクト」はともに毎年実施しているもので、各地に広がる制作地とのネットワークも構築していきます。

また、毎年1度開催しているゆいぽーと感謝祭「ふたば彩」を継続して開催していきたいと計画しています。この感謝祭の目的としては、来館者が落ち込む冬場の利用促進につなげたいということと、日頃お世話になっている地域の皆様への感謝の気持ちをお伝えしたいということ。加えて、文化芸術活動と青少年体験活動の両方を行っている施設としてその融合の成果を発揮し、感謝祭に来館していただいた方々にそういった取り組みができる施設であるということを知っていただきたいという目的で開催をさせていただきます。日頃からゆいぽーとを利用されている団体の発表や、青少年登録団体から日頃の活動の紹介や感謝祭にきた人たちが楽しめる活動を行っていただくなどの協力をいただき、開催をさせていただきます。ゆいぽーとの職員だけが作り上げる感謝祭ではなく、日頃からご利用をいただいている皆様と一緒に作り上げる感謝祭といったコンセプトで実施をしていきます。令和2年2月2日に開催した際には、2月にしては天候もよかったこともありますが、予想をはるかに上回る延べ5, 224名の方が来場されました。近隣地域の方をはじめ、新潟市内全域からたくさんの方にお越しいただき、ゆいぽーとの認知度向上にもつながったものと思っています。ついては、来年度以降も年1回開催していく予定です。今年実施したときの様子を紹介します。日頃から利用いただいている団体による合唱やキッズダンスなどのパフォーマンスです。団体にとっては、一般の方に向けて活動発表の場になり、大変好評でした。また、ボーイスカウトや、ガールスカウトなどの青少年登録団体にも発表、活動をしていただきました。また、遊び体験とありますが、けん玉やスラックライン、カプラ®について、上手な方のパフォーマンスを見ていただいたほか、パフォーマンスを見ていただいたあとに、実際に体験できる時間を設けました。けん玉とカプラ®については、先ほど利用団体向けに20のプログラムがあると申し上げましたが、その中にも含まれる活動なので、実際に見ていただくことにより宣伝効果もあったものと思っています。また、この他にも滞在アーティストのワークショップであったり、「クラフト広場」として自由に工作ができる部屋を用意したり、体育館では豚汁とおにぎりのふるまいを行ったことで大変な行列ができました。また、節分の時期であったため、ステージの上から豆まきをさせていただき、盛会のうちに終了いたしました。

今後も、ゆいぽーとの特性である文化芸術活動と青少年体験活動のコラボをコン

	<p>セプトに、中身を年毎にスケールアップして開催していきたいと考えています。</p> <p>続いて、安全・安心への取り組みについてです。</p> <p>まず、安全対策への取り組みについてですが、当社は、本社に管制センターを有しており、不測の事態に24時間対応が可能です。また、1日4回チェック表に基づく巡回を実施するとともに、宿泊利用がある場合は、夜間巡回を早朝と深夜に3回実施します。加えて、4種類のマニュアルを整備し、それに合わせた研修・訓練を年3回に分けて実施します。</p> <p>続いて、災害対策についてですが、避難誘導経路を明確化した「新潟市芸術創造村・国際青少年センター滞在研修の手引き 館内案内」を利用者に配付します。さらに、避難所として活用していただけるよう防災備蓄の充実を図ります。また、大規模災害によって中核事業が中断することのないよう、現在当社は県外業者とBC協定を結び、万全の体制を整えております。</p> <p>また昨今では、新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策も重要なポイントです。当社は長年、厳格な衛生管理が求められる新潟大学医歯学総合研究所手術室ICUにおいて、一般病棟清掃業者では困難な清潔環境総合管理業務を受託しております。その業務スキルを活用した感染症対策マニュアルや、そのマニュアルに基づく清掃、安全衛生一般研修の実施により、ワンランク上の感染症対策を行ってまいります。万一、本施設にて重大な感染症が発生した際には、当社の医療関連サービスチームが消毒作業にあたり、一日でも早い営業再開を目指します。なお、そのための防護服、消毒剤等は常に準備済みであり、即時対応が可能です。</p> <p>最後に、私たちは、現在の指定管理期間において、文化芸術活動と青少年体験活動の融合という、新潟市の意欲的な試みに挑戦してまいりました。そして、まだまだではありますが、フレームができつつある段階にあります。また、多くの課題はありますが、徐々に学校を中心とした団体利用も増えつつあります。次期指定管理期間では、今まで培った独自のノウハウやネットワークを活用することにより、海と松林に隣接した環境を活かした、新潟市独自の文化芸術活動と青少年体験活動を確立し、情報を広く発信することで、世界中から来館者が訪れる国際交流拠点へと進化させたいと考えております。ぜひ当社にご指定いただけますようお願い申し上げます。</p> <p>ご清聴ありがとうございました。</p>
相庭会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、委員から申請者へのヒアリングを行いたいと思います。時間は30分以内です。</p> <p>それでは、小田委員からお願いします。</p>
小田委員	<p>大変ありがとうございました。それでは私から質問させていただきます。</p> <p>最後の方に、感染症対策や安全対策といった、安全・安心への取り組みのご説明がありました。いただいた資料の中にも、きめ細やかな対応が可能とされていましたが、アレルギーに対する対応はどのようにお考えでしょうか。</p>

申請者	<p>アレルギー対応についてご説明させていただきます。</p> <p>学校をはじめとする団体が当館に宿泊をしてご利用される場合は、お弁当やケータリングの食事をとってもらふことが多いです。そこで滞在研修の場合には、必ず一か月以上前に直接来館していただいて打ち合わせを行います。その中で、参加者の中にアレルギーをお持ちの方いらっしゃるかどうかを必ず確認をとります。また、全てに除去食の対応はできないため、これは除去食の対応ができる、できないといったお話や、このお子さんには団体の方で別の食事を用意してもらふ必要がある、軽いアレルギーなどで全体の料理の中からその食材を除けば食べられるというお子さんの場合には、付き添いの指導者がその場で確認をしていただくようになどの打ち合わせを行います。</p> <p>なお、エピペン等を持っている方の利用は、これまではございませんでした。</p>
小田委員	ありがとうございました。
相庭会長	では、霜鳥委員お願いいたします。
霜鳥委員	<p>プレゼンテーションありがとうございました。</p> <p>私も非常に不勉強で、これまでいろいろな試みをされていたと、初めて知ったものが多く、これがもっとたくさんの方に知っていただけるとよいのにと思いました。その点で、どこかに書いてあるのかもしれませんが、これまで一般の方向け、また学校向けに、こういった広報をされてきたのかを伺いたいです。</p>
申請者	<p>広報についてご説明いたします。</p> <p>学校については、年に4回発行している「ゆいぼーと通信」で、どのような活動を行っているか写真を中心としたお便りを作成し、全小中学校に配付しております。特に、ゆいぼーとの近くの学校5校については、全児童に配付しています。青少年センターにおいてはイベントの日時や内容の一覧表をお配りするタイプの通信が多いのですが、当館においてはまだオープンして日が浅いということで、お示したような写真を載せて、どんな活動をするところなのかがわかるように努力しております。</p> <p>また、計画している年20回の青少年向けイベントについてはイベントプログラムを別に作り、年に2回・3回に分けて、日時や内容、申し込み締め切りのご案内を全小中学校に配付しています。</p> <p>今までは、紙ベースのチラシの配布を中心としてきましたが、昨年度末によろやく全小中高等学校のメールアドレスを打ち込みましたので、今後は、例えば高校であれば滞在している芸術家の作品見学について案内したり、小中学生に向けた大きいイベントがある際にはそれらの学校に案内メールを配信したりしていきたいと考えております。また、来年4月から大人も使えるエリアが3・4階に広がりますので、市小研、中教研、先生方のサークル活動等での利用案内について、チラシ配布に加えてメールでも市内・市外の学校にも配信する予定です。</p>
霜鳥委員	その中で、「ふたば彩」は非常に人手が多かったというお話でしたが、どうしてこれだけの人を動員できたと考えていらっしゃるのでしょうか。
申請者	ふたば彩についてですが、主に学校関係にチラシを配布したのが一番です。中央区だけでなく、全小中学校にチラシを配布したことが効果てきめんでした。また、

	<p>2か国語のホームページ、Facebook、Twitter、LINE、Instagram を実施しており、登録者数はそこまで多くないのですが、アクセス数は非常に多いということで、市民の方からの興味を得られていると感じております。そのようなデジタルコンテンツを使った情報は今とても大事なので、そういったところで情報を得て来られた方は非常に多かったです。</p> <p>そのときにアンケートを実施したのですが、5, 224人のうち7割以上は初めて来た方であり、そういった点から考えても、本施設はまだまだ集客に関する可能性がある、やり方次第ではとても多くの方からご来場いただける施設であると考えています。特に、私たちが今ワンランクステップアップしたいと考えているのは、国際青少年センターと言いながら、アーティストの方は年に4組ほど来るのですが、海外の方から来館していただけるような取り組みが弱いと感じていますので、今後は国際的な情報発信も、インターネットを通じてやっていきたいと考えています。</p>
霜鳥委員	<p>ありがとうございます。これも基本的なことなのですが、ゆいぽーとは新潟市内の青少年のみが利用できる施設でなく、幅広い年代に利用してもらいたい施設だと思うのですが、その広報が弱いように思いました。中に、ママさんとお子さんの利用を促進されていきたいという言葉や、勉強スペースとしての利用を促進していきたいというお話があったのですが、そのあたりもなかなか知られていないと思います。こういったところは、SNS あるいはインターネットを使っての発信ということになりますか。</p>
申請者	<p>そういった取り組みが中心になると思いますが、やはり広域から人を集めるとなると、社員それぞれが持つ市内外のネットワークを通じて情報発信をすることによって、関係のある方々から来ていただくような努力を今後もしていきたいと考えています。</p>
霜鳥委員	<p>ありがとうございました。</p>
相庭会長	<p>それでは、新保委員お願いします。</p>
新保委員	<p>中身の濃いプレゼンテーションをありがとうございました。</p> <p>私からは計画書について伺いたいのですが、計画書の8ページと12ページのところに「中期計画」と出てくるのですが、「中期計画」の具体的な説明がわからなかったのを教えていただけませんか。</p>
申請者	<p>先に12ページの中期計画について、簡単に説明させていただきたいのですが、一つ目の“〇”については、先ほどプレゼンテーションの中で説明させていただいた部分でもあるので、割愛してよろしいでしょうか。もう少し細かい説明が必要でしょうか。</p>
新保委員	<p>「中期計画」というのがどのくらいの期間を指すのか等がわからなかったのを、教えていただきたいというのが趣旨です。</p>
申請者	<p>12ページの新潟青陵大学のボランティアセンターとの連携という点でいうと、現在話を始めているところをごさいますて、中期と言っても1年から3年くらいのスパンで考えております。次期管理期間である5年後には、年間延べ50人の学生ボランティアを目標としており、そのようなスパンで考えております。</p>

	<p>二つ目の、海岸の利用促進委員会については、新潟港湾・空港事務所が中心となって海岸の利活用についての検討を行っております。そこにゆいぽーととして参加させていただいておりますが、その計画の中の「海岸に階段を作る」とか「施設を建てる」といった事業については、同事務所が実施していくこととなります。計画の中に、2年から3年後には、ゆいぽーとの角の信号から直接海岸に降りられる階段が設置されるというものがありますが、ゆいぽーとの事業ではありませんので、2年後になるか、3年後になるかということについてははっきりとわかっておりません。単年度、短期の計画ではないことは確かであり、計画のうち中期の目標として「階段を作る」というものがあり、おおよそ5年以内にとされています。</p> <p>抽象的な話になってしまい申し訳なかったのですが、「中期」というのは、次期指定管理期間の5年間の意味合いでとらえていただければと思います。それから先の展望につきましては、将来的展望というもう少し大きな話になるのですが、まずこちらに書かれている「中期」というのは、この5年間での完成を目指すというものと捉えていただければと思います。</p>
新保委員	わかりました。では12ページに書かれている「中期計画と今後の展望」というのは、次期管理期間の5年間で達成するとの理解でよろしいでしょうか。
申請者	そのとおりです。
新保委員	あと、広報の関係なのですが、ホームページについては2か国語以上、SNSについても2か国語以上という言葉がみられますが、これは日・英・中ということでしょうか。それとも、具体的なことではなく日・英が最低であともう1言語ということでしょうか。
申請者	まず日・英が入ります。また、東アジアを一つの文化圏と考えておりますので、先ほどお話したように国際交流スタッフとして中国語を話せる人間がいるということで、日・英プラス一部中国語と捉えていただければと思います。
新保委員	ありがとうございました。
高野委員	<p>素晴らしいプレゼンテーションをありがとうございました。私も新潟市内に住んでおりますが、ゆいぽーとの素晴らしい事業というものをほとんど存じ上げず、今回会議に参加させていただいて、本当に素晴らしい試みをされていると思いました。私も小さい子どもがおりますので、ぜひ感謝祭などに参加できたらよいなと思いました。</p> <p>私の方からは、収支計画書について質問いたします。</p> <p>積算の方は非常に細かく、よく作りこまれていらっしゃるんですけど特に申し上げるところはないのですが、1点だけ教えてください。収支計画書の積算内訳書の令和3年度なのですが、雑収入のところに、「メセナよりの繰入」が60万円とあります。令和4年度以降は30万円と少なくされているのですが、そもそもの「メセナよりの繰入」についてももう少し詳しいご説明をいただきたいのと、また60万円から4年度以降は30万円に下げているんですけど、おそらく事業費など支出の方との調整なのかなと思うのですが、そのあたりもご説明をいただけるようであればお願いします。</p>
申請者	メセナ活動について、ご説明させていただきます。メセナ活動については、主に

	<p>アーティスト・イン・レジデンスの作家を支援するために民間資金を募るという趣旨で、前回私たちが公募に参加した際に提案させていただいて、実際に今会員の方から会費をいただいて、アーティストを支援しているものです。</p> <p>そういった趣旨で、現在アーティスト・イン・レジデンスの作家を支援しているのですが、今お金が60万円ほど口座の中にあり、レジデンスの作家支援のためだけには使いきれないかなと思っております。なので、次期指定管理期間においては、規約の改正なども必要なのですが、その使い道をもう少し幅広く、このゆいぽーとの文化芸術活動支援全般に使えるように変更したいと考えております。基礎的な部分で当社がお金を入れているものを除くと、年間30万円ぐらいの会費をいただいて運用しているので、来年度は口座に残っている60万円をまず充当し、その後はいただいた会費の中から、文化芸術活動全般の支援に使っていこうと考えております。</p> <p>なお、メセナの残金があるという話がありましたが、新型コロナウイルスの影響で、4月から6月に滞在する予定であった今年の春の招聘プログラムの2組の作家が、一人はオーストラリアの方で出入国ができず、もう一人は東京からだったのですが非常にシビアの状況であったことから移動が難しいということで、来年度に延期になったという経緯があります。よって、アーティスト・イン・レジデンスの作家が滞在しない3か月間が今年の春あり、メセナの基金を使う必要がなかったのも理由の一つです。</p>
高野委員	<p>ありがとうございました。メセナ基金というものを存じ上げず、失礼いたしました。そういったところでも活動に参加できるということがわかり、私もどんどん伝えていきたいと思いました。</p>
柳沼委員	<p>とても貴重なお話ありがとうございました。</p> <p>私の方から、基本方針に関わってお尋ねしたいのですが、説明の中で、「水と土の芸術祭の理念を継承する」というお話がありました。これはとても素晴らしいことだと、いいことだと思うのですが、この「水と土」というキーワードは、やはり漠然としていて、そしてお話に出てきた「新潟のアイデンティティ」という言葉がありましたが、そこがとても重要な気がしているのですが、この「新潟のアイデンティティ」を具体的にどう捉え、どのようにアピールしていこうとしているのかという点。もう一つは、「ゆいぽーとならでは」というお話もありました。この二葉中の校舎、何度か足を踏み入れましたが、ここならではということはどうアピールすればいいのか、そこも難しい問題と思っているのですが、その特色で何かお考えのことがあればお聞かせいただきたいと思います。</p>
申請者	<p>まず「水と土」についてですけれども、芸術祭のコンセプトを継承するということは先に申し上げたとおりなのですが、この「水と土」という言葉がもたらす抽象性というのも確かにあるやもしれません。私自身、芸術祭に10年余り関わって思ったことは、そもそもあの芸術祭がなんで「水と土」というタイトルを設けたのかということ、それは平成の大合併で広域合併した際に、新潟市の新しいアイデンティティをどこに見出すか、それを新潟市内外の人たちに発信していこうという目的で名づけられたものだと聞いております。新潟市はもともと水と土、具体的には、信</p>

	<p>濃川、阿賀野川が運ぶ土砂が堆積してできた越後平野、また新潟の産業、文化、暮らしと様々なものが、先人たちが水と土のたゆまぬ関係性の中から育んできたものであると考えると、新潟の地形も文化も、まさに水と土が育んできたものと言えます。合併後の新 新潟市は、そのコンセプト、アイデンティティを「水と土によって育まれた文化都市」にして、都市イメージを打ち出そうということではじまったものです。</p> <p>ただ、それをどう伝えていくか。そこでアートが有効であろうということで、アートには様々な表現スタイルがあり、物を創るだけではなく、行為であったり、リサーチであったり、あるいは街歩きや食だったり、そういうもの展開しながら、新潟市民や市外県外の人に、新潟は「水と土の文化都市なんだ」ということをアイデンティティとして発信していくべく、4回にわたって芸術祭が開催されました。</p> <p>それはある程度浸透したとは思いますが、まだまだ浸透していない部分もあると思います。それで市民プロジェクトが引き続き行われております。このゆいぽーとが4回目の芸術祭を開催したときにオープンしたというのは、やはりとても意味があることで、その芸術祭で関わった「水と土のアイデンティティをアピールしながら、それをもっと広めていこう」という人たちに、仮にその芸術祭がなくなった後も、ゆいぽーとを拠点にそういった活動ができる、そういった拠点ができたということで現在関わってもらっています。</p> <p>また、「ゆいぽーとならでは」についてですが、ゆいぽーとの立地状況、砂丘列に建ち、海岸が近くにあって松林があるということももちろんですが、それ以上に青少年体験活動と文化芸術活動という、一見ちょっと違う、けれども接点がたくさんある活動が同じ施設の中で同居しているという複合施設ということです。世界各国いろいろなアーティスト・イン・レジデンスの施設や文化施設がありますが、青少年体験活動との複合でやっているのは、私の知る限り他にありません。そして滞在する作家も「こういう施設ならば全く新しい発想が出来る」と口々に感想を言ってください。ゆいぽーとならではの最大の特色は、青少年体験活動と文化芸術活動が同居する、またそれで新しい創造に導いていくという施設であるということだと思っています。</p>
柳沼委員	<p>青少年体験活動についての説明も素晴らしいと思っていたのですが、とりわけ指導者育成というのがありましたが、この企画は公立学校の教員に対して広報しているのでしょうか。</p>
申請者	<p>教員向けの広報もしているのですが、重点をおいて、教員の皆様や学校宛に文書をお送りするところまではできていないというのが現状です。</p> <p>もちろん養成講座の対象となりうるとは認識しており、力を入れて広報に努めていきたいと考えています。</p>
柳沼委員	<p>若干個人的な意見になってしまいますが、こう言った資質が今の学校教員に最も求められるものだと思っています。アプローチの仕方としては、学校にというよりも教育委員会とか行政の色々な段階を通じて、一番いいのはトップダウンという形だと思いますが、教員がそういった経験をするのはとても重要なことだと思いました。</p>

	<p>また全体的な話として、このコロナ禍の現状は、全てのあらゆる領域の人々にとって何かが大きく変わっていく気がするのです。このことによって「こんなことができるんだ」と大きく変わった可能性。とりわけ「ふれあいの場」とキャッチフレーズが書かれています。ふれあうことが制限されている中で、ここを拠点とするアピールの仕方、例えばオンラインによる方法など、これだけ価値のある中身の文化をその場所にだけ閉じ込めるといよりも、そこを拠点とした発信の仕方の展望はあるのでしょうか。これは今、リアルタイムに起こりつつあることで、まだ準備ができていないことなのかもしれないのですが、今まで出てきた広報の問題とも兼ね合わせて、非常に重要な分岐点のような気がしています。コロナ後を、どうしていくのかの展望が何かあれば教えていただきたいと思います。</p>
申請者	<p>まさしく、今回事業計画を作るときにその提案をどうしようかと、私たちの中でも意見があり、今後どうやってオンラインでの魅力の発信、講座、アーティストの活動を発信していくかの協議をしました。ただ現状で、具体的にどういうことができるかまでは到達していない状況です。もちろんZoomを使った講座など概念的なものはありますが、まだ具体的なものではないというのが現状です。</p> <p>ただ、そんなに長いスパンでなく、短いスパンの中で具体的に実現していく意欲は持っております。</p>
柳沼委員	<p>今いろんな教育現場で、パソコン1つで広がっていくという部分があって、だからふれあうことを避けるのではなく、だからこそふれあいとか、自然との関わりが重要だということを再認識させられた時期でもあるような気がします。</p> <p>そういうところでの工夫というか、最小限のものを最大限にして活かして発信していく可能性が見えきた中で、ぜひそういったことが展開されてくるといいなと思いました。</p>
相庭会長	<p>それでは時間になりましたので、以上をもってヒアリングを終了したいと思います。ありがとうございました。</p> <p>これで、プレゼンテーション及びヒアリングを終了いたします。なお、評価の結果につきましては後日事務局からご連絡いたします。</p>